別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第4回 豊島区スポーツ推進計画策定委員会
事務局(担当課)		学習・スポーツ課
開催日時		令和6年8月27日(火) 18時00分~20時00分
開催場所		区役所本庁舎8階 807・808会議室
議 題		1 開会 2 スポーツの定義、豊島区のeスポーツの考え方について 3 基本目標に対する成果指標、数値目標について 4 新・豊島区スポーツ推進計画の骨子(案)について 5 その他
公開の 可否	会 議	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開 傍聴人数 0人
	会 議 録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
出席者	委 員	松尾哲矢委員、亀山有希委員、村本宗太郎委員、木津美佳委員、 佐藤妙子委員、本山美子委員、武井悦子委員、井出千晴委員、中 村真喜子委員、米田久美子委員、高間祥文委員、渡邊圭介委員、 兒玉辰哉委員、木山弓子委員、田中真理子委員、活田啓文委員 <div style="text-align: right;">計 16名</div>
	事 務 局	学習・スポーツ課長、学習・スポーツ課職員 5名

審 議 経 過

1 開会

事務局：これより第4回豊島区スポーツ推進計画策定委員会を開催いたします。本日はお忙しい中ご参加いただきまして誠にありがとうございます。まず初めに配付資料の確認をさせていただきます。皆様には事前にメールで資料をお送りしておりますけれども、その後資料の中身を精査し修正を重ねております。本日は配布した資料で進行をしていきたいと思っております。事前にお送りした資料から変更した点につきましては、別紙にまとめてありますのでご確認ください。庁内の委員の皆様方は、全庁共用フォルダに資料を準備しておりますのでそちらをご利用ください。資料の確認ですけれども次第の他に資料1から4、それから参考資料1といたしまして、前回皆様方からとしまくらしさとしてご意見をいただきました。ご意見の中で6つほどあげさせていただきました。現在の豊島区の取組についてまとめた資料でございます。それではこれから先の進行につきましては会長にお願いしたいと思います。

会長：お忙しい中にお集まりいただきありがとうございます。オリンピックが終わりまして、いよいよ今度パラリンピックが始まりますね。スポーツを見るだけの形、やるスポーツではなくて見るスポーツなんだ、私達とは縁がないんだ、ってことには絶対やっちゃいけないと思います。やっぱりそこを目指す人たちも多いでいいし、そうではなくて日頃楽しむようなスポーツをやっぱり充実させていくこともとても重要ですね。そういった意味ではこの計画が高みを目指すことも大切なことですが、日常的に楽しむ世界をどう作るかということで皆さん方に検討を進めていただいているところでございます。本日は4回目になります。大分固まってまいりましたが、まだ見落としているところもございますので大体今日は最終的なご意見の集約になってくるかと思っておりますので、どうぞ忌憚のないところでですね、気軽にいろんな角度からコメントをいただければと思います。それではですね、次第の2 スポーツの定義、豊島区のeスポーツの考え方についてを事務局よりご説明をお願いしたいと思います。

2 スポーツの定義、豊島区のeスポーツの考え方について

事務局：資料1と資料3を使いましてご説明したいと思っております。まず資料3の3ページをご覧ください。まずスポーツの定義でございます。こちらは以前です、皆様方にある程度お示しをしてご意見をいただきながら、今回は定義については固めていきたいと思っております。資料3の3ページ真ん中より下ところでございます。3本計画におけるスポーツの定義について読み上げ

ます。ルールに基づいて勝敗や記録を競う競技性のスポーツだけでなく、健康づくりや介護予防のためのウォーキング、トレーニング、軽い体操をはじめ、意識的に行う日常生活の中の階段の昇り降りや散歩、サイクリング、レクリエーションなど、自発的に楽しむ運動をスポーツとして扱います。ということで意識的に行う日常のというように「意識的に」という言葉を追記しております。それから e スポーツの定義、考え方でございます。こちらは資料 1 をご覧いただきながら、検討していただきたいと思っております。豊島区の e スポーツの考え方でございます。一般的な e スポーツのイメージといたしましては、大会で勝利すること勝ち負けを目的としているものが多い印象にあります。賞金があったり観客がいて観戦も人気であったり大規模な会場での開催もでございます。また YouTube 等での配信があり、競技性が強いそういった e スポーツのイメージがあると思っております。一方で豊島区での e スポーツのイメージといたしましては、最新技術を用いて誰もが楽しめること、例えば誰でも楽しめる身体活動やフレイル対策の一環として、また障害の有無に関係なく心身ともに健康な状態を目指すものを豊島区の e スポーツと捉えていきたいと思っております。参考資料に写真も貼付しておりますけれども半身不随など運動機能に障害を持つ方でもできる、こちらについては先ほどお話した通り障害の有無に関係なく、健常者も障害者も一緒にスポーツができる。そして高齢者は楽しく身体を動かすことができる、激しい運動ではなく画面を見ながらみんなで楽しめる、そういったものをイメージしているところでございます。上記を踏まえた上で、豊島区の e スポーツの考え方は下記の通りということで、スポーツの要素が高く、誰でも気軽に楽しめる身体活動を伴い、心身ともに健康の維持増進につながるものを豊島区の e スポーツとして捉える。という風に考えていきたいと思っております。資料 3 の 3 ページに戻りまして、e スポーツの考え方についてこちらの案として、記載させていただいております。スポーツの定義の中に e スポーツの言葉も入れるかどうかですね、今は分けて記載をさせていただいておりますけれども例えば、定義の中に e スポーツなどというような言葉も入れて広く e スポーツも含めたスポーツの定義にしていくか皆様方からのご意見をいただければという風に思っております。以上でございます。

会長：丁寧なご説明ありがとうございました。これについてご意見等がございましたら、お願いいたします。

委員：e スポーツを定義に含めるかに関しましては、別で良いのではないかと思っております。定義に入れられると書き方は綺麗だとは思いますが、一方でやっぱり e スポーツっていういろんな捉え方をされている方が今はまだまだ多いので、あえてエスペシャリーみたいな形で切り出した方がいいのかなと

いうふう考えておりました。もう一点、スポーツの定義についてすごく小さいことなんですけど、せつかくこうやって作っているの調査をしたときによりたくさんの方を拾い上げられるような、書き方をさせていただけるといいのかなと思っておりました、最後の部分で自発的に楽しむ運動を自発的に行う運動の方が広く拾い上げられるのではないかなと思いました。前々回お話をしたように妊娠中とかあんまり激しい運動ができなかったときに、拭き掃除を自分の健康維持のためやっていたみたいなきっかけがあったんですけども、楽しんでやっていたかというよりは健康増進のために行っていたという感じで、楽しむってことを書いてしまうと、今後調査をしたときに自発的には行っているんだけど別に楽しんでいるわけではないかなというこの表現に引っかかってしまう方がいらっしゃったらちょっと残念だなと思ったので、行うの方が広く拾い上げられるかなと少し考えております。

委員：スポーツの定義というところで考えますと、私個人では楽しむ運動とした方がよろしいのではないかなと思っています。スポーツという言葉そのものが単純に体を動かす全般的な活動というよりかは、どちらかというスポーツの語源に近いところで、自主的にその活動を楽しむと、その中において身体を動かすってところがやはりスポーツの語源に出てくるかなと思うので、豊島区において体を動かしている人の割合という数字で見えていくのであるならば多分行う方が数字上は伸びてくるのかなと思いますが、スポーツ推進計画というものの中において、豊島区の人たちが身体を動かすことを楽しんでいるということをもってスポーツであるというように見た方が語源にはより近く考えられるのかなと思います。そこでもスポーツの活動範囲から漏れ落ちてしまう人がいるのであればそこでまた新たなアプローチを考えた方がよろしいのではないかと思いました。定義としては楽しむ運動の方がより良いのかなと思います。また、eスポーツについてはですね、現在の時点でも定義が割れているといえますか解釈が結構様々に行われていまして、その中で考えると、豊島区のeスポーツのイメージということで最新技術やデジタルデバイスを用いた形で誰もが楽しめる、ここでもやはりスポーツを楽しむというところが出てくるとと思いますが、そこが要素の中に入っていることは非常に肯定的に捉えられるのではないかと思います。eスポーツという言葉そのものについてはまだやはり少し分けて考えるというところで、eスポーツはeスポーツでこういう形で豊島区は考えているというふうに挙げた方がよろしいのかなと思います。豊島区の中でeスポーツをこのように捉えている、考えている、というところを明確に打ち出しているという方がまずは重要なのかなという風に考えます。その中で誰もが気軽に楽しめる身体活動であるということ。それが楽しむ活動を通じて心身ともに健康の維持に繋

がっていくというところ、スポーツの要素を非常に捉えていますので、こちらの定義についてはよろしいのではないかという風に考えております。

委員：このeスポーツというのはなかなか分かりづらい部分があるかと思うんですけども、ようするにeスポーツっていうのはエレクトロニック・スポーツの略ですよね。そうした中で映像とかそういったものがeスポーツかなというような感覚でしかないんですね。そうなりますと今現在やっているような囲碁とか将棋とか身体を動かしてやるスポーツあれはスポーツとして捉えているんですが、eスポーツとして入り込むのかその辺のところは豊島区としてどういう考えをもっているのかということも区別にしておいた方が良いのかなと思いました。囲碁とか将棋は別で考えた方がよいのではないかと思いました。身体を使って頭を使って戦略的なこともおありになるでしょうけどeスポーツの捉え方とは少し違うのかなと思いました。

会長：囲碁とか将棋とeスポーツは別に考えた方がよいという意見でした。ここでいうエレクトロニック・スポーツというものをどういう形で豊島区らしく展開できるのかというところですね、いわゆるデジタルを使う、デジタル社会の中にあって体を動かす楽しさスポーツをどう展開するかという意味ではこのeスポーツが非常に有効な取り組みになるということだと思います。東京都さんでもですね、いろいろと計画を立てているところですけども、eスポーツもどんどん取り組んでいく方向で検討はなされている方向ですが、その取り組み方というのはなかなか安定していないところがありますけれども、今回こういう形で明確に豊島区はこの部分をeスポーツと言っているんですっていうのをお出ししていくのは良いと思います。

委員：単純にeスポーツという言葉を知らない豊島区の方、高齢者の方もたくさんいらっしゃると思いますので、eスポーツ（ビデオゲーム・コンピューターゲームなど）というような注釈があると分かりやすいと思います。

委員：ボッチャという競技の審判をしております、今までeスポーツの範囲の中には健常の方がパソコンを使ったりあるいは機器を使ってというイメージかと思うんですが、ボッチャは重たい障がいの方たちができるスポーツなんです。とくにBC3というクラスが自分でボールを投げられないので、サポートいわゆるランプオペレーターの方がランプという器具を操作して競技に参加するという形になっております。そのランプの操作をパソコンと連動させて、自分の意志で自動的に動かせる機械を開発しているという方にお会いしまして、それは基本選手は身体的にはスポーツはしていないんですけども、頭の中ではボッチャというスポーツをしている中において、いわゆるパソコンとの連動によって競技に参加できる、あるいはeスポーツっていうくくりの中に入れていいのではないかというのを拝見したときに思いました。資料

にあるようなスポーツ要素が高く誰でもっていうところに大変価値を見出しましたので、eスポーツは5年後見直しもあるかと思いますが、おそらく10年後には世の中はもっと進んでいるかと思いますが、ぜひ一角に入れていただけたらと思います。

副会長：まずeスポーツの定義については、すごく丁寧に定義づけを言語化していただいたなと思います。そして資料1の右側の写真ところがすごく分かりやすいイメージではないかなと思っていて、eスポーツをこの政策の中に取り入れる目的は体力や運動能力が異なっても年齢が異なっても、そこに集えばいろんな年齢層の人たちがeスポーツを通じて交流ができるっていう部分なのではないかなと感じていまして、そういった意味ではこれから浸透していく段階なので、まずは少し概念のところを分けてそれから中間の見直しのところでそこまでにたくさんの方に触れあっていただいて、誰もがeスポーツってああいうスポーツだよねって豊島区から発信できるような形で、その段階になったら次はこの定義の中にも織り込んでみるっていうのが、何かこうとしま区らしさにも繋がるのかなと思ったのが1点目です。それから2点目のスポーツの定義ということで、楽しむっていう言葉もスポーツが好きな人や身近な人は楽しむってスッと入っていくと思うんですけども、運動する過程の中にはやはり大変さだったりとか苦しさだったりとかその方の状況もあるので、味わうとか親しむみたいなこのスポーツとの関わり方の言葉を少し添えてみるっていうのも1つの方法なのかなと思いました。

会長：厚生労働省がこの運動を考える時には、身体活動という言い方をなさっている。そこには楽しさとか文化的な要素というよりもとにかく体を動かすことが重要なんだという認識です。ただ一方でスポーツを文化としてそれを進めていくっていったときのそこを切り分けるものってなんだろうっていうところで先ほどお話があったとおり、デポルターレという元々のラテン語によるスポーツの語源があって、それは日常生活から離れて楽しむというような構図を持っていると、スポーツを文化として捉えるときのキーワードとして楽しさ喜び親しみという言葉添えることで、ただ動かせばいいって話ではない、ただ委員の方がおっしゃったように、例えば、先ほどの例の話だと妊娠中で激しい運動ができないと体調管理のためにやるとこれも立派なスポーツですよってその通りです。そこは非常に悩ましいところあるんですが、ただ動かせばいいというものでもないというところの表現をどうするかですね。スポーツ庁やスポーツ基本計画でも楽しさってことをうたっていきましようということがベースとなって、基本計画の根幹に全部添えていてそういった意味ではここに出したと思いますけれども、太らないためにもダイエットのためにやってるんだってことを排除しないというところを明確にです

ね、定義の中に健康づくりやっ書いてありますけれども、そういうところも含みこむような、ただベースとしては身体を動かしながら親しんだり楽しんだりっていうところを大切にしましょうねっていう意味ではいれてもいいかもしれないですね。

委員：以前テレビで、神奈川県のだこかの市が健康第一の市になったと、その理由が、坂が多くて坂を市民が上がらないといけないと、いろんな方にインタビューしていたら、坂があるから自分たちは健康が一番と言って誇らしく思っているんですけど、その坂を上がっている方を見ると決して楽しそうじゃないんです。ですから、ここにあるように豊島区でも e スポーツのイメージですね、目的は楽しむことでもいいと思うんですけども、定義は行うことでもいいのではないかなと思います。

会長：ただ運動を行うことが実はスポーツであるということですね。今いろいろなご意見をいただきました。行うということもあれば、そこに文化的な要素を入れて楽しむところもあると。この辺り他にご意見があったら頂戴したいと思いますがいかがでしょうか。行うが全体をカバーできる形でいいのではないかと。ただ一方ではやっぱりスポーツという語源ですとか全体的な定義とか国の基本計画等々なんかも考えますとそこに楽しさや喜びなんかも入れてもいいのではないかとのご意見もあると。

委員：また、小学生に楽しみなさいっていうと、楽しくないからやらないとはっきりいうと思いますね。行うだったらすると思いますが、楽しもうっていうと楽しくないからやらないっていうのは子どもの中では言葉でスパッと分かりますので、楽しもうっていうのは大人の夢のような言葉なんですよ。でも行うか楽しむかは子どもにとって大きな違いだと思います。

会長：学習指導要領に親しみって言葉があるんですけどね、実態上はなかなかその通りにはいかないということですね。

委員：目的は親しむことや楽しむことなんですけれども、定義としては行うでいいと思います。

会長：定義を最大限広くして行うにするのか、あるいはそこに文化性を入れて親しむを入れるのかはもう少し検討していただくということでよろしいでしょうか。検討しながら、定義と目的っていう問題を切り分けるという考え方をお示しいただきましたけれども、定義に目的性みたいなものを包み込んでいくとすると、入れてもいいのではないかとのご議論もあります。ではこの辺にさせていただいて最終的には改めてご提案していきたいと思います。e スポーツについては、いきなりスポーツの定義の中に e スポーツという言葉を入れずに特だした形でやってみたらどうかというところですね。それでは続きましてですね、次第 3 ですね、基本目標に対する成果目標とか、数値目

標につきまして事務局より説明をお願いします。

3 基本目標に対する成果指標、数値目標について

事務局：それでは資料2をご覧ください。基本目標3つ掲げております。記載の通りでございます。1. 誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことができるまちの実現、2. スポーツを通じた多様性の実現と人と人が支え合う共生社会の実現、3. スポーツを通じた地域活性化と持続可能社会の実現の3つでございます。これにぶら下がる成果指標などは今まではなかったということでございますが進捗を図るための指標として事務局案でございますけれども、こういったものを設定してはどうだろうかということ提示させていただいております。たくさん記載してございますけれども、基本目標の進捗を図る代表的な指標になるのかなというふうに思っております。目標ごとに2、3個程度と記載しておりますけれども、もう少し絞ってもいいかもしれません。基本目標1については、地域でスポーツに親しむ環境や機会があると思う区民の割合、区立体育施設利用者数、スポーツ関連事業の参加者数というのが指標になるのかなと思います。基本目標2につきましては、パラスポーツ、インクルーシブに関与をしたことのある区民の割合、パラスポーツ、インクルーシブスポーツ体験イベントなどの実施数、イベント参加者数などが挙げられます。基本目標3につきましては、企業や大学などと連携して実施した事業の実施数、都市交流を契機としたスポーツ交流事業の実施数、地域スポーツクラブの活動クラブ数参加者数、誰一人取り残さない社会の実現にスポーツが貢献していると思う区民の割合などが挙げられます。なお、成果指標につきましては、目標あるいは目指すべき数字などは記載しないというふうにしたかと思っております。続きまして、下の方の数値目標でございます。こちらは現計画を継承するという意味でスポーツをする、みる、ささえるの視点から数値目標を掲げて検討をしているところでございます。1つ目、スポーツをするでは週1日以上スポーツを実施する区民の割合、5年後の目標を75%にしているところでございます。また、週1回以上スポーツを実施する障害の20歳以上の割合、こちらは45%を目標としております。スポーツをみるでは、1年間にスポーツを観戦した区民の割合を75%とし、このうち実際に会場などで直接観戦した区民割合を45%としております。またスポーツをささえるでは、1年間にスポーツを支援する活動に参加した区民の割合10%を目標としています。また満足度ということで自身のスポーツライフやスポーツへの関わり方に対して満足をしていると感じる区民の割合を5年後に60%としているところでございます。なお、スポーツをするのうち週1回以上スポーツを実施する区民の割合と、その下の週1回以上スポーツ実施する障害の

ある20歳以上の割合、それから下から2つ目の1年間にスポーツを支援する活動に参加した区民の割合につきましては現計画でも目標を設定して、進捗管理をしたところでございます。簡単ですが、説明は以上でございます。

会長：いわゆる成果目標ですね、これをどういう風な形で提示をしながら、それを出したからにはそれに向かってきちんと進めていくというのが条件になる訳ですけども、その数値の提示のしかたというのが非常に難しいところでございます、高く出しすぎてもいけませんし、かといってもうすでに対応できているって数値でもいけませんし、そのあたりの見定めもあろうかと思えますけれども、その数値目標を出せるところでは出すことによって、進捗が非常に分かりやすい形で提示できるという要素も入っているのではないかと思います。まず上の成果指標に関しましては後ほどご意見をお聞きしたいと思えます。実際に数値目標としてこの辺りは出していいんじゃないかっていうことで、今回はお出しをいただいているところでございますけれども、このスポーツをするという点については、75%と記載がございまして国の方で5年間の第3期の基本計画、これはスポーツ基本法の第9条に基づいて5年ごとにやっております今第3期なんです、第3期の目標が70%。東京都の場合は少し高いところに推移しておりますので75%となっております。正確ではないかもしれないですが、ですから75%という目標は出していいのではないかと。それから障害者の方のスポーツ実施率ですね。令和5年度は32.5%となっておりますが、国も近いぐらいの数値だったかと思えます。ただ東京都さんがやった別の調査によってはですね、40%を超えるっていう数値を見たことがあります。一般的には使われているとしては、国としては40%というところが今の1つの流れとなっている中で、目標を45%として少し頑張ろうという数値ですね。それからスポーツをみるという観戦につきましては69.2%ですが、とはいえ80%90%はそう簡単にいけるわけではございませんので、75%というラインをまずはしっかりと定めていくのはどうかというご提示ですね。直接観戦については、豊島区としてのデータがないですかね。この元になる基本的な数値としてはどのあたりを、参考にされていますか。

事務局：こちらはですね、現状の数字がない中で最初は目標を50%としていたんですけど、50%いくかなというところで45%とし、これはある程度何かの根拠があってというわけではないんですけども、半分よりももう少し皆さんが直接観戦していただければというようなところで出した数値になってございます。

会長：根拠が明確ですかと聞かれた際は、必ずしも根拠は明確ではないと、ただそういう意味では他の調査を参考にしながらここは出していくべきかとは思えます。それからスポーツささえるってところが、6.1%というところで

やりたい方々ですね、希望率っていうんでしょうか2割3割ぐらいいらっしゃるわけですが、なかなかそうはいかなくてということで、別の調査でも7、8%になっています。ただそのボランティアっていう考え方が何をもちとスポーツボランティアっていうんですかっていうとかなり高いハードルがですね、審判をやるとか指導者をやるとか当日の大会のボランティアとかがあっていうことがあるんですけれども、もう少し広げて考えた調査もあって、例えば送り迎えとかそういったものも入れると20%近くにもなったりするそういったデータもあったりして。そういった意味で言うと20%というラインがここでは出されている、これは妥当かどうかは非常に難しい話ではあります。またこの満足度は今回初めてお出ししてはどうかというところの提案です。量だけではなく、質の部分をどう見るかというのがこれから問われていくというときに、満足度を図ることが重要だと。ただ満足度が100%というのは当然いかないと思いますし、これについてはなかなかベースになるデータっていうのは国のデータぐらいしかないですが、6割っていうのを出してはどうかというところがございます。そういったところでこの数値の出し方に対してのコメントをまずいただければありがたいと思います。

委員：まず1つ目はインクルーシブという言葉を一般的に分かりやすい言葉にしてほしいと思います。もう1つはみるっていうところでスポーツ観戦の割合が69.2%となっていますが、テレビを通しての観戦なのかラジオを通しての観戦なのか、直接会場での観戦なのか、みるの基準がどこなのかを教えてください。

事務局：テレビでも結構ですし、ラジオでも結構ですし今はYouTubeでもですね、配信したりということもございます。そういった中でスポーツを見たり聞いたりそういったところでスポーツに触れたというところで見ると定義しております。そしてそれとは別に、直接試合会場に行って臨場感と言いますか、そういったものを感じていただいたというのがその下の部分の直接観戦した区民の割合ということで記載しております。

委員：オリンピックとかそういったものがあれば数値としてももう少し伸びると思いますがいかがでしょうか。

事務局：こちらの方はですね、昨年度の意識調査を参考にした数字でございますのでそういう意味ではですね、この1年間はテレビなどで観戦しない人もいらっしゃるなということが調査を経て理解したところがございます。

会長：テレビやラジオや直接など本人が観戦したかという問いに対してみると答えた割合が約7割程度。残りの3割はオリンピック等見ていないこととなります。

委員：スポーツにささえるが入ってきて、いろんなサポーターさんがいると思うん

ですが、そういったものもささえるに入っているのであれば、数値的にもう少し増えてもいいのではないかと思います。

会長：スポーツボランティアって言葉を使ってしまうと、そこまでやってないという方もいらっしゃるかなかなか数値が上がらないということもあります。

委員：指標でスポーツをする人の目標 75%は個人的には少し高いかなと思います。身の回りの方で、仕事もして子育てもしてスポーツもするっていうのはとてもアクティブな人だなという印象でして、そういう層の方も含めて 75%というのは少し高い気がします。今回定義を少し広げるっていうことで拾いこめる方もいらっしゃるかなと思いつつではありますが、70%くらいが良いのではないかと思います。

委員：スポーツの定義を少し広げていこうという動きがありますので、例えば自分の運動不足を気にして、働いている方の中には一駅前で降りて会社まで歩く方もいらっしゃいます。それもウォーキングですのでそれをスポーツとして捉えるのであれば、少し高めですが希望的なところも含めて 75%でもいいのではないかと思います。

会長：それでは、資料2の上部成果目標に戻らせていただきます。基本目標が3つございまして、その中に成果目標がそれぞれいくつかありますが、こちらに対して何かご意見ございますか。

委員：基本目標3の成果指標の中で、都市交流を契機としたスポーツ交流事業の実施数というものがありますが、具体的に都市交流を契機とした交流事業は例えばどういった事業がそれに該当するのかイメージが分からなかったため教えていただければと思います。

事務局：今想定しておりますのは、秩父市とスポーツ交流を実施しておりますので、その競技数ですとか回数ですとか、そういったものをイメージしております。

委員：としまらしさが入っていると、面白いデータになるのかなと思いました。例えばとしまらしさであげている項目だと、外国人のスポーツみたいなものが入れると、としまらしい成果目標になるのかなと思いました。

会長：先ほどですね、ご意見いただいたなかでインクルーシブスポーツですとか、あるいはパラスポーツなど、似たような言葉がたくさんあり分かりづらいというご指摘があったかと思います。こちらについては整理しながら記載していくということでよろしいでしょうか。

委員：最近文章の中に横文字が多いので、一般の人でも分かりやすいように、この言葉はこういう意味なんだという言葉の解説を記載したほうが良いのではないかと思います。具体的に理解できない言葉が出てきたときに言葉の解説があることで、意味が通じて分かりやすいと思いました。

事務局：我々もインクルーシブという言葉はそろそろ社会的に通用する言葉かなと思

いながら使わせていただいておりますが、様々な方がいらっしゃいますのでそういった言葉には注意するというのと、あと代わりの言葉がないような場合はですね、使わせていただく場合もございますのでそういう場合は言葉の解説を入れるように丁寧に作成していきたいと思っております。

4 新・豊島区スポーツ推進計画の骨子（案）について

事務局：それでは資料3を使用してご説明いたします。2ページ目次でございます。第1章 豊島区スポーツ推進計画の改定にあたって、第2章 豊島区のスポーツを取り巻く現状と課題、第3章 豊島区スポーツ推進計画における具体的取組、第4章 計画の推進体制、最後に参考資料ということで目次立てをしております。3ページ第1章 豊島区スポーツ推進計画の改定にあたって 項番1 計画改定の背景と目的です。こちらにつきましては、国や都の動向そして豊島区が現在改定中の豊島区基本構想基本計画などの内容を記載していく予定でございます。続きまして項番2 計画の位置付けでございます。こちらにつきましては第3回の策定委員会でもお示ししたものでございます。計画の図も入れながら記載していきたいと思っております。項番3 本計画におけるスポーツの定義については先ほど説明させていただいた通りでございます。文言等につきましてはご意見いただきましたので少し修正をしていきたいと思っております。続きまして4ページ項番4 計画の期間でございます。こちらも前回お示しをしておりますが計画期間10年間ということで、令和7年から16年までの計画とし、計画の中間見直しということで令和11年に改定をしていく予定です。第2章 豊島区のスポーツを取り巻く現状と課題、項番1 豊島区における社会情勢の変化ということで、こちらは以前の策定委員会でお示したような人口情報等様々な豊島区の基礎データを記載していきたいと思っております。それから項番2 国や東京都の動向ということで、国の第3期スポーツ基本計画や現在改定中でございますけれども、東京都のスポーツ推進総合計画などの概要を載せたいと思っております。項番3 豊島区のスポーツに関する現状、こちらに関しましては、区民のスポーツに関する意識調査、それから障害者のスポーツ実施状況、それから豊島区のスポーツ協会などのデータを記載する予定です。それから項番4 豊島区のスポーツに関する課題。こちらは前回皆様からご意見いただいたところでございまして、こちらは追加で記載する予定でございます。第3章 豊島区スポーツ推進計画における具体的取組、項番1 計画の基本理念、こちらは前回前々回ぐらいに皆様方からご意見をいただいたところでございますが、この基本構想・基本計画も現在策定中でございます。整合性を図りながらまた皆様方からご意見を伺って次回確定していきたいというふうに思います。項番2 数値目標、成果指標。

こちらは先ほどご意見いただいた内容を記載したいと思っております。項番 3 施策体系。こちらは施策の体系ということで見開きのページで記載を予定しております。前回からの変更点として、基本目標 1 の出だしの文言削除と語尾を変更しました。前は、年齢や性別に関わらず、誰もがと始まっていましたが、前半部分を削除し誰もがから始まっております。語尾に関しては、親しむことができる環境づくりでしたが、親しむことができるまちの実現へ変更し、基本目標 1 と 2、3 の語尾を合わせました。前回基本目標 2 に入っていました、障害者のスポーツ活動の参加促進を基本目標 1 の施策 5 へ移動しております。続きまして、6 ページ以降でございます。こちらはより詳細な取組事業記載をしてございます。これまでの委員会でも度々提案をしておりますけれども、改めて確認していただきたいと思っております。続きまして、10 ページでございます。としまらしさにつきまして記載をしております。特に記載していきたいのは、6 つの施策でございます。1 つ目外国人に対する施策、2 つ目区内大学との連携に関する施策、3 つ目アーバンスポーツに関する施策、4 つ目マンガ、アニメに関する施策、5 つ目 e スポーツに関する施策、6 つ目部活動の地域移行に関する施策でございます。こちらに関しましては、参考資料 1 をご覧いただければと思います。豊島区の特徴 6 つに対しまして、既存事業や進捗状況、基礎データ、関連情報を簡単にまとめたものでございます。続きまして 11 ページ、第 4 章 計画の推進体制、項番 1 計画の推進体制及び進捗管理、項番 2 計画の評価と見直しでございます。こちらにつきましては、これまでなかなか進捗管理ができていなかったということもございまして、PDCA サイクルを回しながら計画の進捗管理をしていきたいと思っております。最後に参考資料を記載する予定でございます。以上が現時点での、新・豊島区スポーツ推進計画の骨子案でございます。

会長：いろいろな立場の各委員の方々からご意見がありましたらいただければと思います。

委員：やはりとしまらしさを生かした施策のところをどれだけ詰められるかというところ、さらに具体的にどのようにしてやっていこうかというところを今後整理していければいいのではないかと思います。参考資料 1 のとしまらしさというものを見たときにどういう領域に触れていこうとしているかは非常によく分かる一方で、例えばマンガ、アニメととしまらしさは結びつきがしやすいのですが、ただそれがスポーツ推進計画に具体的にどのように繋がっていくのだろうかというところが多分まだイメージがしづらいところはあると思います。そうやってきたときに、何をどこまでの目標として進めていくのかというところが具体的にできているといいのではないかと思います。現在参考資料の中でも、例えばマンガ、アニメだとイベント開催実績が挙げら

れていますけれども、イベントを行うことと区民のスポーツ推進とどのように関わってくるのかというところについてもいろいろな取り組みがあつて、若者を対象にしていくのか、子どもを対象にしていくのか、高齢者を対象にしていくのか、いろいろと取り組み方が変わってくると思いますのでそこを詰めていくことで充実した内容になっていくのではないかと思います。またとしらしさとして企業、大学との連携というところの具体的な取組等があればすごく豊島区らしいスポーツ推進計画になるのではないかと思います。

委員：どういう動きをするにしても、情報の出し方や連携の仕方とかそういったところをですね、この中でうたえなくても実際にやっていく中でどうやってその情報を出していくか、それは高齢者であっても、障害者であってもどんな方であっても、わかりやすい出し方、それから協力していただけるような出し方、参加してほしいのであれば、どういうふうにすれば参加していただけるかというところですね、しっかり考えて情報提供をしていただけるととてもありがたいと思います。

委員：としらしさの参考資料を見た時に、高齢者の部分もとしらしさに含めなくていいのかなと、高齢者にアピールできるものがあるのもいいのではないかと思います。また、外国人の方との繋がりについてです。参考資料には言語のことなどの記載がありまして、たしかに言語が通じなければ何もコミュニケーションが取れないんですけれども、スポーツに関しても日本ではこういうスポーツがメジャーなんですとお伝えして、それを一緒にやるのか、それとも外国の文化でこういうスポーツもあってそれを一緒にやるのかによっても違うと思うんですよね。ただ私もあまり知識がなく、外国人の皆さんは団体に所属して集まってスポーツをされているのか、団体に所属せずスポーツをしているのか、日本人との交流の範囲については存じておりませんので難しいところでございます。

事務局：外国人の方の個々の活動の情報収集は非常に難しいとは思いますが、団体の活動をされている方たちとは区の交流がございますので、そういったところを利用してどのようなスポーツをやっているのか、あるいはスポーツを通じた日本人との交流をどのようにして望んでいるのかというところは、団体に聞いてみても良いのかなと思いました。前回、外国人とのスポーツ交流などのご意見もいただいておりましたので、今回はそこまでは具体的な事業として落としてきていないところですが、一つの大きな方向として今回あげさせていただきましたので、しっかり事業化するような計画を進めていきたいと思えます。

委員：としらしさとして高齢者が入ってもいいのではないかと思います。また、

生涯にわたって健康でいられるっていうのは大事なことでして、高齢者が健康を維持するためにスポーツを継続的に行うためには、交通の便が良い近場でできるっていうのが大事だと思います。

事務局：今回はとしまらしさとして6つあげてはいますが、高齢者のスポーツ活動の充実や継続的支援につきましても、基本目標1の中に掲げてしっかりと推進していきたいと思っております。フレイル対策でしたりとか、年齢を問わず健康でいられるというのはスポーツ推進計画の基本だと思っておりますので、今回特出しの中には含めていないですけれども、計画の中には落とし込んでいく予定でございます。

委員：私は障害者として豊島区民として一緒に活動したいし、高齢になってくると障害も増えてくると思うので、ボランティアとか今回の会議のようにガイドとかを呼んで、例えば体操とかしたときに全然違う動きをしていることもあって、そういったときに一緒になってやっていく中で違いを教えてくれる人、声をかけてくれる人、ボランティアというよりは、仲間がいてくれると一緒に楽しくめると良いと思います。またスポーツって楽しいことだけではなくて、障害があると手足を動かすことだけでも大変、でも身体を動かしたい方もたくさんいると思います。でも動かせる場所を知らない。情報が無い。そういったときに、としまらしさとして障害者をいかにしてほしいと思いますし、情報が無いと動けないので情報を流してほしいと思います。

事務局：今回スポーツ推進計画を改定するわけですが、お話を聞いて情報の出し方っていうのが非常に大切なんだなというふうに感じました。ご意見をいただくだけではなく、今度皆様方に計画をフィードバックする豊島区としてこういうことをやっているんだ、あるいは様々なイベント、スポーツ事業をやっていますけれども、その情報が皆様に届くようにそういったところも力をいれて計画の中にも入れていきたいと思っております。

委員：としまらしさが導入されたことはとてもいいなと思いました。とんがっているところだからとしまらしさになっていると思うので、欲をどれだけ入れ込むのか、入れ込みすぎても基本目標に近づいてきてしまうと思うので、どの程度入れられるかっていうところもあると思うんですけど、子育て世代の欲を言えば、部活動の地域移行は対象があくまで中学生の方々だと思うので、区の中でも限られている層かなと思うので、このあたりに少し子どもみたいな形でふんわりさせると、区長も子育てに力を入れているっていうこともあり良いのではないかなと思う一方で、入れたことによってとんがらなくなるのではないかなと思いました。

事務局：部活動の地域移行はですね、全国的にはやっているとは思いますが、豊島区の特徴として、地域の皆様方が活動している、そこと連携しながらや

っていく、地域皆さんが部活動を支えるっていうのがとしまらしさだなと思
い記載をさせていただいたところでございます。今お話しがありましたが、
もう少しオブラートに包むのか、子育てということで変えていくのかは事務
局でも検討させていただきたいと思います。

委員：としまらしさって素敵だとは思いますが、非常にふわっとしていて豊島区
の特徴なのか、力を入れていきたいところなのかが分からないなという印象で
した。私も高齢者が入っていないことに疑問を持ちました。高齢者が元気に
暮らせるための取組も区として力を入れてほしいと思いました。それから障
害の方ですね、歳を取れば障害のリスクも増えると、それこそインクルーシ
ブみたいな意識があると良いのではないかと思いました。それから、小学生
がスポーツしたいと思ったときに一番困るのが場所です、ボールを使いた
いのどこでも使えない、放課後の校庭でも使えない、公園でも使えない状
況です。さくら小学校の近くにはネットで張った部屋みたいなのがいくつか
あってその中で野球をしているんですね。素晴らしい知恵だと思いました。
そこに並んでいるわけではなくて、みんなが譲り合って使っていますので、
こんな場所があればボール遊びしたいなっていう意見も出ないのではないか
なっていました。小学生の場所にそういう場所に関しては、何かしら部活
動の地域移行とともに考えていただければと思います。あとこれは参考資料
なのでたまたまだと思いますが、一番最初に外国人が来ているのが少し違和
感でした。

事務局：参考資料の順番は修正します。また小学生の遊び場につきましてもですね、
子どもレターで一番数が多いところでございますので、そのあたりに触れ
ていこうと思っております。

会長：いろんな計画があるなかで、としまらしさって何だろうって考えた時に、重
点課題のように見えてしまう見せ方っていうのは違うと思っています。豊島
区の持っている特徴を生かしたというような表現で、なんとなく重点課題の
ように見えてしまっただけをやらぬのかそういうわけではなくて、むしろ基
本目標の中に収まっている、ただそれを分かりやすく豊島区の特徴を生かし
たという点だところになりますよねという形で書きぶりをどう見せるかが難し
いところです。特徴だけ出してしまうと、そこだけが重点されて豊島区ほか
はやらないのか決してそういったわけではございません。

委員：私も参考資料でとしまらしさを見た時に、たしかに外国人は多いけれども、
外国人に対して、どのように豊島区としてアプローチするのか何をしたいの
かっていうのがよく分からなかったです。

委員：私は中小企業診断士として、区内の事業者さんや企業の方とお話する機会が
多いんですけども、その中で話しているとあまり大口ではないけれども小

口で、企業イメージ向上のためにスポーツイベントに協賛したいという企業もあります。そういった案件で言うと、ここには区内の大学と記載はありますが区内の民間企業も例えば用具の貸し出し、イベントの協賛などそういったところでサポートしてもらってというのも新しいとしまらしさとしてどうかかなと思いました。

事務局：前回、チームとしまのお話をさせていただきました。企業が豊島区の困っていることを自分たちの得意分野で豊島区を支えていこうというものなのですが、その中で区内のスポーツ団体ですとか、何個かプロリーグありまして前回お話させていただいたバスケットとかダンスとかそういったところとの連携も豊島区の特徴になるのかなと思いますので、そこのあたりは追記していければいいなと思います。

会長：やはり、区内に8大学ありますのですごく強みであるが、チームとしまというものあり、チームとして全体で支えていこうとしているところなので、あわせて一緒にやっっていこうというのがとしまらしさなのではないかというところでは。

委員：子ども家庭部が所管している計画の中に、家庭的養育推進計画があるんですがその中で豊島区らしさを生かしていくといった中で、外国人の多さや繁華街が近いというのが豊島区らしさとして提案しましたが、新宿とどこが違うのと委員の皆様の特徴として言えないのではないかというご意見をいただいた意見がございます。家庭的養育推進計画の中ではとくに豊島区らしさをあまりPRしない方針となりましたが、スポーツ推進計画の中では豊島区らしさをPRできるのではないかと思います。

委員：先ほど高齢者の話がありましたが、豊島区自体の高齢者の割合っていうのは東京都内と比較しても高いわけではなく、平均よりも低めだったかと思えます。ただですね、高齢者の一人暮らしの割合が非常に高いということでこれが日本一という状況でございます。一人暮らしは別に悪いことではないんですけれども、高齢者の一人暮らしはリスクもありますからその反面ですね、フレイル対策ですとか、引きこもりにならないようにリスク面での対策を高齢者施策としての一環では強く推しているところでのフレイル対策となっております。そこでスポーツ推進計画の方にも繋がってくるのかなと思っております。また、障害の分野で言いますと、障害者っていうのも様々な障害の方がいらしてそれぞれに特性があって、一概に障害者の方のスポーツ参加っていうのは1つにくることがなかなか難しいところではあります。当事者の方は健常者の方よりもスポーツをすることのハードルが高くなっている、これは社会的にそのハードルを課しているということになるんですけれども、そういったところをどうやって対策できるかというところは福祉部で

策を練ってスポーツ推進計画に反映させたいと思っています。まずはですね、当事者のお声を聞いて何が障壁なのかを少しでも追求していくところかなと思います。

委員：大前提としていろんな立場の人がいると思いますが、属性に限らずスポーツを楽しめるようにすることが区としての責任なのではないかと思いました。例えば外国の人が、実際のところ私たちと交流したいのかしたくないのか、どう考えているのか分からないんですがその辺も含めて把握に努めながら、情報の出し方など工夫し、スポーツを通じて住民として馴染んでもらうことも、スポーツ推進計画の中に盛り込んでいければと思いました。また本区は10年ほど健康チャレンジという事業もやっておりますが企業や大学と連携していますのでそのつながりも大事にしていきたいと思っています。

委員：教育委員会としては、部活動の地域移行が課題となっています。まず部活動の多様化によって顧問がいません。また、たくさんやりたい種目があるのに少人数で部活にならない、部活として成立しないということがありまさに地域移行は全国的な課題となっています。そこでとしまらしさとして地域のスポーツクラブなどで地域と連携することによって課題が解決できる、そして教育委員会だけでなく、区長部局の学習・スポーツ課が引っ張ってくれるというのは心強いです。一方で子どもの体力低下も課題になっています。とくにコロナ禍を経て、遊ぶ場所もないですし、今年は猛暑によって外で遊べないことも多かったと思います。今回の計画策定の中で子どものスポーツ活動の充実という施策が入っているので、期待しております。教育委員会でも教育ビジョンを策定していますが、このスポーツ推進計画と合わせて進めていければ良いと思います。

委員：皆様方の本当に様々な意見を聞きまして、スポーツっていうのは本当に幅が広いなというところを改めて感じました。それぞれの基本目標の1~3のところでは、高齢者の方障害者の方などいろいろと記載しておりますけれども、最後のとしまらしさっていうところではどのように記載するかはこれから考えていくとして、区内大学や企業との連携や特にマンガ、アニメに関する施策っていうのがどれだけ計画の中に書き込めるのかなというところを考えていた中で、例えば区内大学だけじゃなくて企業も一緒に連携していく中にマンガ、アニメを入れてしまうのも良いのではないかと思いました。また子どもたちの遊び場がないというご意見がありました。豊島区は敷地も狭いので、広い場所が非常に限られています。ですがそれを逆手にとった形で、あまり広くないところでもできるアーバンスポーツというのはひとつ特色として出せるのではないかと思いました。また今回のスポーツをするみるささえるの中で、もう一つ応援するという表現を出してもいいのではないかとい

うご意見が以前あったかと思いますがけれども、区内にプロチームが出来てきたという背景を考えると、例えば、区民の方とみんなで応援していこうというイメージ、そういうようなイベントが出来れば新しいものになるのかなと、皆様方の意見を聞きながら思いました。

副会長：まず1点目は、スポーツの定義っていうのはかなり柔らかく広げようという取組で、ただどうしても先ほどの指標のところではスポーツって言葉が全面に出てくるので、例えば運動・スポーツっていう形で少し文言を柔らかくしてみてもいいのかなと思いました。それから2点目は、としまらしさの部分は資料を拝見して、豊島区の中でこれだけスポーツを媒介にしているいろんな人が関わり合える空間があるんだというのがとしまらしさのようにも感じました。今委員の皆様からいただいた、もっと違う角度からとかいろんな層の方、つまり冒頭で会長がおっしゃられていた高みを目指すことも大事だけれど一方で、裾野を広げていくっていう部分ではいろんな方がスポーツに触れる機会がとしまらしさの中に実はもう財産としてあって、私はここでアプローチできる、私はここに行ってみよう、e スポーツだったら子どもたちと高齢の方々が関われるようなそんなプランになるといいのではないかと思います。最後にすごく実績がある池袋ハロウィンコスプレなんかはもう今、アニメ界がスポーツ界を牽引するような現象がたくさん出てきていて、パリオリンピックでもバレーの開場では、日本のアニメの主題歌が流れてまさにいろんな国の人たちがバレーボールを見に行きながら、アニメの音楽で共通に共感をして、バレーを応援する熱狂できるみたいなことを逆に何かアニメとかマンガの世界からスポーツにアプローチできる機会になるかもしれないので、既存のイベントの中にスポーツ部門みたいなものを新しく作ってみるとか、外国人の方々であれば、豊島区だとだといろんなカルチャー的なイベントやフェスをやっていらっしゃると思うんです。その中にスポーツカルチャーも新しく付け加えてみる、みたいな形で足し算でどンドンととしまらしさを立体的に表現が出来るのかなとお話を伺ってました。

会長：皆さん非常にですね重要なご示唆をいただいて、今回の計画全体としてスポーツっていうのは非常に下級の低いものとしていきたいと思います、そこを大切にしながら皆さん方が関わっていただきながらやれるようなものにしていく、まだ逆にいうとスポーツを活用しながらいろんな活動が同時に展開できるような仕組みにしていこうというのが、今回の計画の特徴として入れていくのが良いのではないかと思います。最後委員の方応援ってワードがあったかと思いますが、するみるささえるっていう点からささえるとみると非常に近いところで応援するというのがあって、いわゆる推しっていうんでしょうか。それぞれ区民の皆さんがいろんなスポーツをいろんな角度から推して

いただけるような取組をして街全体が活性化していくと良いのではないかと
思いました。なお豊島区の特徴を生かしたスポーツ施策をどう展開するかと
いうところで、他の区ではなかなか出てこないんです。例えば、区内に大学
がたくさんはなかったり、チームとしまのような集まりもない。外国籍の多
さも都内で上位に入る、マンガアニメは他の区ではまずなくて、どうそれを
融合して新しいものを作り出せるかっていうところですね。としまらしさ
についても様々なご意見ありがとうございました。今後ですね、いただきまし
たご意見を踏まえましてですね、ブラッシュアップして次回にまたお話し
させていただきたいと思えます。

5 その他

事務局：資料4 今後のスケジュールでございます。本日第4回が終了しまして、次回
は第5回目になります。日程が確定いたしまして、11月7日木曜日で時間は
同じく18時からとなります。スケジュールの下にもございますけれども、12
月にパブリックコメントを予定しております。最後にですね、後ほど気づい
たこと等ございましたら、配布のご意見表をご提出いただければと思えます。

会長：それでは特になければ、第4回スポーツ推進計画策定委員会を閉会いたしま
す。皆様本日はどうもありがとうございました。

<p>提出された資料等</p>	<p>〈配布資料〉</p> <p>資料 1 豊島区の e スポーツの考え方</p> <p>資料 2 基本目標に対する成果指標、数値目標</p> <p>資料 3 新・豊島区スポーツ推進計画の骨子（案）</p> <p>資料 4 豊島区スポーツ推進計画策定委員会スケジュール</p> <p>〈参考資料〉</p> <p>参考資料 1 としまらしさ</p>
-----------------	---